

浜から食卓までを網羅し、
挑戦の歩みを未来へ



2026年3月期 第2四半期（中間期） 決算短信補足説明資料

2025年11月7日

8091

プライム市場



 ニチモウ株式会社

2026年3月期第2四半期決算

2026年3月期第2四半期決算のポイント：増収増益で順調な着地

売上高：67,022百万円 前年同期比+8.8%（期初予想進捗率 通期49.6%・第2四半期103.1%）

営業利益：1,586百万円 同+29.0%（同 通期48.1%・第2四半期96.2%）

事業環境

米国関税政策の進行や中東軍事衝突の継続などで、マクロ経済に不安定感残るが、

- ・食品事業：インバウンド需要は伸長。他方、物価上昇による個人消費の弱含みが続く
- ・機械事業：設備投資意欲は堅調だが、人手不足が続き納入時期が長期化。海外は円安効果で需要増

各セグメントの状況

食品事業：増収減益 中国向け凍魚販売が大幅拡大も、各原料の高騰で利幅伸びず減益

海洋事業：増収増益 養殖関連は堅調に推移、漁具資材・船舶関係も購買意欲は復調

機械事業：増収増益 国内外ともに設備投資意欲が高まり、販売が伸長

資材事業：増収増益 建材用フィルムや包装資材の販売は前年並みで推移、環境配慮商材では海洋と連携

2026年3月期第2四半期決算：期初計画通り順調な業績で推移

売上高：67,022百万円（+8.8%）

食品事業は中国向け凍魚販売で大幅増収
海洋事業は引き続き養殖関連が順調

営業利益：1,586百万円（+29.0%）

海洋事業は養殖飼料伸長と海苔の相場高騰で増益
機械事業は国内量販店向けベンダー複数社の改修案件で増益

（単位：百万円）	2025年 3月期2Q	構成比 （%）	2026年 3月期2Q 実績	構成比 （%）	前年同期比 （%）	2026年 3月期2Q 期初計画	2026年 3月期 期初予想	期初計画に 対する進捗率（%）
売上高	61,607	100.0	67,022	100.0	+8.8	65,000	135,000	49.6%
売上総利益	5,687	9.2	6,283	9.4	+10.5	—	—	—
販売費及び 一般管理費	4,456	7.2	4,696	7.0	+5.4	—	—	—
営業利益	1,230	2.0	1,586	2.4	+29.0	1,650	3,300	48.1%
経常利益	1,436	2.3	1,803	2.7	+25.5	1,750	3,500	51.5%
親会社株主に帰属する 中間純利益	1,083	1.8	1,327	2.0	+22.5	1,250	2,500	53.1%

上期事業別動向（前年同期比）

主要3事業（海洋・機械・資材）で増収増益、食品事業の原料相場によるボラティリティをカバー

（単位：百万円）		2025年3月期2Q	構成比 （％）	2026年3月期2Q	構成比 （％）	増減
全体	売上高	61,607	100.0	67,022	100.0	+5,415
	営業利益	1,230	—	1,586	—	+356
食品	売上高	38,768	62.9	42,157	62.9	+3,389
	営業利益	876	43.7	772	31.7	△ 104
海洋	売上高	11,051	17.9	12,227	18.2	+1,175
	営業利益	450	22.4	659	27.1	+208
機械	売上高	6,009	9.8	6,670	10.0	+660
	営業利益	391	19.5	766	31.5	+375
資材	売上高	4,406	7.2	4,612	6.9	+206
	営業利益	190	9.5	192	7.9	+1
バイオティックス	売上高	134	0.2	142	0.2	+8
	営業利益	0	0.0	△0	—	△ 0
物流	売上高	1,182	1.9	1,158	1.7	△ 24
	営業利益	54	2.7	△ 1	—	△ 56
その他＊	売上高	54	0.1	53	0.1	△ 0
	営業利益	44	2.2	42	1.8	△ 1
全社費用		△777	—	△ 845	—	△ 67

＊その他は、不動産賃貸業など。営業利益構成比は、全社費用控除前。

主力事業の状況① 食品事業・海洋事業

食品：増収減益 海外への販売が増加も、物価高のあおりを受け国内の量販店向け商材の販売は低調

(単位：百万円)	2025年3月期2Q	利益率（％）	2026年3月期2Q	利益率（％）	増減
売上高	38,768	－	42,157	－	+ 3,389
営業利益	876	2.3%	772	1.8%	△104

- < 鮮凍水産物 > (55.6%) カニは業務用販売好調も、製造コストの上昇などで増収減益。北方凍魚は中国向け販売が引き続き順調に推移し増収増益
助子は量販店向け販売苦戦も、生産効率の見直しにより増収、営業利益は前期比並み
- < 加工食品 > (27.8%) 物価上昇により、量販店向け製品の販売が伸び悩み減収減益
- < すり身 > (16.6%) 国内すり身の販売数量は増加も、南米すり身は漁獲不振に伴う減産により増収減益

海洋：増収増益 養殖関連は堅調に推移、漁具資材・船舶関係も購買意欲は復調

(単位：百万円)	2025年3月期2Q	利益率（％）	2026年3月期2Q	利益率（％）	増減
売上高	11,051	－	12,227	－	+ 1,175
営業利益	450	4.1%	659	5.4%	+ 208

- < 養殖部門 > (55.4%) 養殖用生簀・餌料販売が安定しており、増収増益
- < 漁網・漁具資材部門 > (38.5%) イワシ等の漁獲対象魚種の豊漁により、各種漁具資材の販売が伸長し増収増益
- < 船舶・機械部門 > (6.1%) 船舶用機器類の販売が堅調に推移し増収増益

* ()は売上高構成比

主力事業の状況② 機械事業・資材事業

機械：増収増益 国内外ともに設備投資意欲が高まり、販売が伸長

(単位：百万円)	2025年3月期2Q	利益率（％）	2026年3月期2Q	利益率（％）	増減
売上高	6,009	－	6,670	－	＋660
営業利益	391	6.5%	766	11.5%	＋375

<国内>（89.6%）インバウンド需要伸長を背景に、高まる外食・業務用での投資意欲に対応し増収増益

<海外>（10.4%）豆腐・惣菜設備を中心に、米国のほか、アジア・ヨーロッパ圏にも展開し増収増益

資材：増収増益 建材用フィルムや包装資材の販売は前年並みで推移

(単位：百万円)	2025年3月期2Q	利益率（％）	2026年3月期2Q	利益率（％）	増減
売上高	4,406	－	4,612	－	＋206
営業利益	190	4.3%	192	4.2%	＋1

<化成品>（94.0%）印刷用フィルムや包装資材販売は堅調で増収も、一部米国の政策動向の影響を受け営業利益は前年同期比並み

<農畜資材>（6.0%）今夏の猛暑をはじめとした気候変動対応関連の農業用資材等の需要が高まり、増収増益

* ()は売上高構成比

貸借対照表（要約）

伸長するインバウンド需要や季節性(年末商戦他)需要に向けて、積極的に水産物在庫を確保
⇒例年どおり3Qから4Qにかけて、在庫は着実に消化される見通し

資産の部			負債・純資産の部		
(単位：百万円)	2026年3月期2Q末	前期末比増減	(単位：百万円)	2026年3月期2Q末	前期末比増減
流動資産	64,855	+ 8,354	流動負債	38,988	+ 6,902
現金及び預金	6,364	+ 407	支払手形及び買掛金 電子記録債務	11,901	△ 2,190
受取手形及び売掛金 電子記録債権	16,280	△ 1,130	短期債務	23,262	+ 10,384
商品及び製品	35,444	+ 8,442	契約負債	1,973	△ 1,044
固定資産	27,679	+ 1,228	固定負債	21,621	+ 838
有形固定資産	10,413	△ 179	純資産	32,051	+ 1,822
無形固定資産	587	△ 60	株主資本	26,263	+ 972
投資その他の資産	16,677	+ 1,469	その他包括利益計	5,769	+ 848
資産合計	92,661	+ 9,562	負債・純資産合計	92,661	+ 9,562

キャッシュ・フロー計算書

- ・ 事業特性上、年末商戦に向けた在庫の積み増しを行っており 3 Q以降で販売・回収
- ・ 現預金残高を一定水準で維持し借入残高をコントロール

(単位：百万円)	2024/4-9	2025/4-9	増減	主な要因
現金及び 現金同等物の期首残高	7,658	5,514	△ 2,143	
営業活動によるキャッシュフロー	△13,466	△ 9,440	+ 4,025	売上債権の減少 + 1,036 棚卸資産の増加 △9,125 仕入債務及び契約負債の減少 △3,039
投資活動によるキャッシュフロー	△765	△ 458	+ 307	有形・無形固定資産への投資 △491
フリーキャッシュフロー	△14,232	△ 9,898	+ 4,333	
財務活動によるキャッシュフロー	12,402	10,329	△ 2,072	短期借入金の調達 + 13,224 長期借入金の調整 △2,076
現金及び現金同等物の 四半期末残高	5,795	5,927	+ 132	

 ニチモウ株式会社

2026年3月期通期見通し

上期の評価と下期の事業環境（上期総括を踏まえた今期見通し）

通期見通しに変更無し、食品事業は外部環境からの影響受けるも、その他各事業にてカバーできる範疇

2026年3月期（上期）総括

外部環境

- ・インバウンド需要は伸長、外食・業務用堅調
- ・食品:国内個人消費は弱含み、水揚減少で原料高騰
- ・機械:人手不足で国内設備投資意欲継続
海外も円安効果で需要増

内部状況

- ・食品：供給体制は万全
- ・その他各事業：
養殖も含めて当社製品・サービスへの評価は、実績もあり着実に向上と認識

2026年3月期（下期）見通し

外部環境

- ・国内:新政権下での各種政策期待効果による
個人消費改善・インバウンド需要増に期待
- ・海外:米国の通商政策を含む国際情勢の先行き
不透明感が不安要素

内部状況

- ・事業トレンドに合わせ対応継続も油断は禁物
 - ⇒食品:3Q年末商戦に注力し挽回を狙う
 - ⇒海洋:トレンドが続く養殖ビジネスに注力
 - ⇒機械:中小型案件を積増し、大型受注獲得へ
営業強化

2026年3月期見通し：売上高1,350億円（+0.8%）、営業利益33億円（+9.9%）

期初見通し・前提条件は変更なし。売上高・営業利益ともに、過去最高更新へ

売上高：①インバウンド需要拡大・年末需要による復調で食品事業は増収へ
②海洋事業は養殖事業拡大で増収へ
③機械事業は前期大型案件による反動減を想定

営業利益：①主要4事業は、全て増益を想定
②食品事業は高品質・高付加価値な商材に注力し、収益性向上へ

(単位：百万円)	2025年3月期	構成比 (%)	2026年3月期	構成比 (%)	前期比	
					(%)	+ 差異
売上高	133,900	100.0%	135,000	100.0%	+0.8%	+1,099
営業利益	3,002	2.2%	3,300	2.4%	+9.9%	+297
経常利益	3,601	2.7%	3,500	2.6%	△2.8%	△101
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,666	2.0%	2,500	1.9%	△6.3%	△166

2026年3月期見通し（四半期毎の業績推移）

前上期：機械大型案件の納入遅延や養殖関連資材の販売低迷から減益、年末商戦と合わせ下期で挽回
今上期：売上・利益ともに期初計画通り堅調に推移、年末商戦含め利益積み増しで過去最高の業績更新へ

(単位：百万円)

	売上高				営業利益			
	2025年3月期 (実績)	構成比 (%)	2026年3月期 (2Q発表時)	構成比 (%)	2025年3月期 (実績)	構成比 (%)	2026年3月期 (2Q発表時)	構成比 (%)
通期	133,900	100.0	135,000 (計画)	100.0	3,002	100.0	3,300 (計画)	100.0
1 Q	30,297	22.6	35,305 (実績)	26.1	648	21.6	1,033 (実績)	31.3
2 Q	31,309	23.4	31,716 (実績)	23.5	581	19.4	553 (実績)	16.8
上期	61,607	46.0	67,022 (実績)	49.6	1,230	41.0	1,586 (実績)	48.1
3 Q	42,385	31.7	—	—	1,516	50.5	—	—
4 Q	29,907	22.3	—	—	255	8.5	—	—
下期	72,293	54.0	67,977 (計画)	50.4	1,772	59.0	1,713 (計画)	51.9

← [機械]
一部前倒し

← [食品]
年末商戦

2026年3月期見通し（事業別）：事業分野別でも期初見通しに大きな変更なし

主要4事業を中心に安定成長、全分野で増益を想定

（単位：百万円）		2025年3月期 実績	構成比 （%）	2026年3月期 見通し	構成比 （%）	増減
全体	売上高	133,900	100.0	135,000	100.0	+1,099
	営業利益	3,002	—	3,300	—	+297
食品	売上高	84,102	62.8	84,500	62.6	+398
	営業利益	1,953	41.0	2,100	40.9	+147
海洋	売上高	22,377	16.7	23,000	17.0	+623
	営業利益	755	15.9	900	17.5	+145
機械	売上高	15,618	11.7	15,000	11.1	△618
	営業利益	1,456	30.6	1,500	29.2	+44
資材	売上高	9,043	6.7	9,500	7.0	+457
	営業利益	382	8.0	400	7.8	+18
バイオティックス	売上高	293	0.2	350	0.3	+57
	営業利益	17	0.3	20	0.4	+3
物流	売上高	2,352	1.8	2,550	1.9	+198
	営業利益	108	2.3	120	2.3	+12
その他＊	売上高	110	0.1	100	0.1	△10
	営業利益	90	1.9	90	1.8	0
全社費用		△1,760		△1,830		△70

＊その他は、不動産賃貸業など。営業利益構成比は、全社費用控除前。

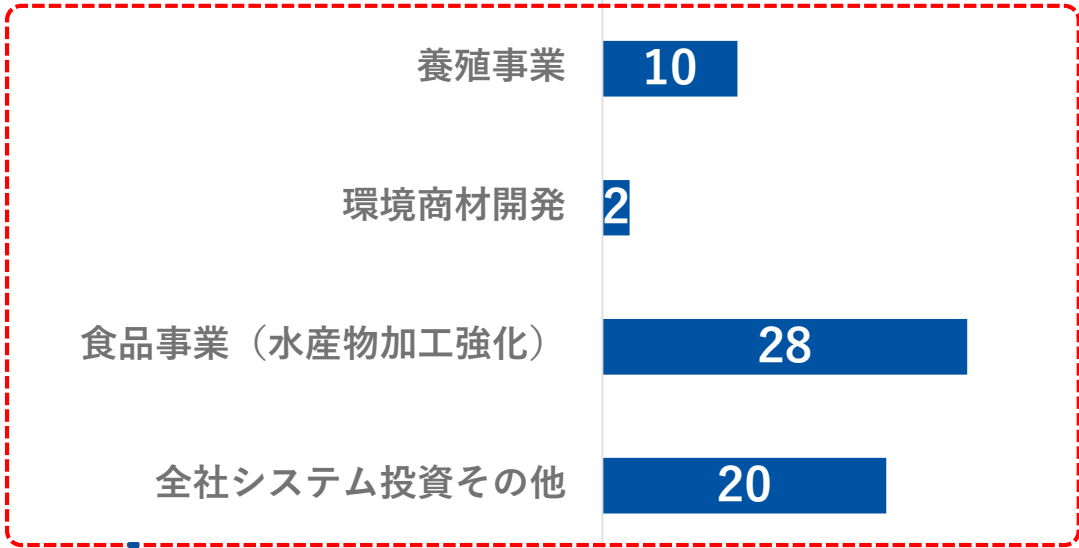
 ニチモウ株式会社

資本政策・株主還元

投資計画（中期経営計画）

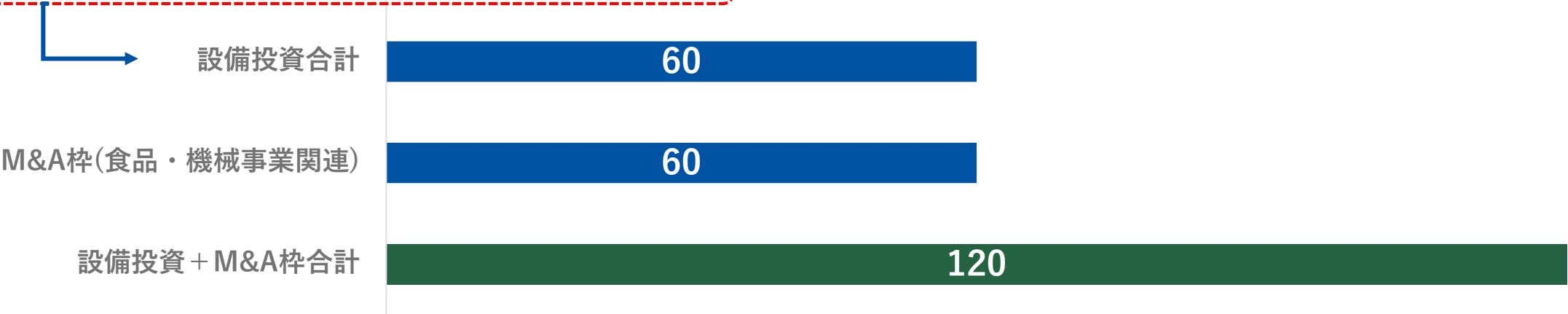
成長有望領域（養殖・環境開発・ホタテ・機械）を中心に、「設備投資」と「M&A」実施予定

・現中計では、設備投資＋「M&A」枠で120億円まで同様のペースで設定予定



設備投資60億円 **+** M&A枠60億円
(対象は食品・機械事業関連が中心)

- ・事業投資 40億円
（水産物加工・養殖など）
- ・DX投資 20億円
（システム整備など）



投資計画の半年間の動き

M & Aは、半年間での具体的な成果はないものの、引き続き候補先を積極的に選定中
設備投資は、まずは「養殖事業」と「全社システム投資」の2つのテーマにおいて具体的進捗あり



- ・ 陸上養殖システム内製化の具体的な取り組みスタート
⇒ 年度内に岩手県久慈市に試験プラント設置へ！
- ・ 養殖システムの設計～建設～運用～メンテナンスまでを一手に手掛ける国内初の事業者を目指す
⇒ 各種展示会で当社取組みを積極PR中



- ・ システム体制を抜本的に再構築する取り組みスタート
- ・ 100年の歴史やノウハウに基づく「強み」をデータ化、デジタル化し全社員で共有することで、企業の競争優位性とスピード感を高めていく
⇒ 将来的な労働力の減少も視野に入れた対応

ブランディング強化の一環としてニチモウ初のCM『浜から食卓まで』編をテレビにて放映



特設サイトはこちらから

- ・ニチモウ100有余年の歴史で初めてとなるCMは、当社パーパスにも含まれている「浜から食卓まで」を包括的に表現することを目指し制作

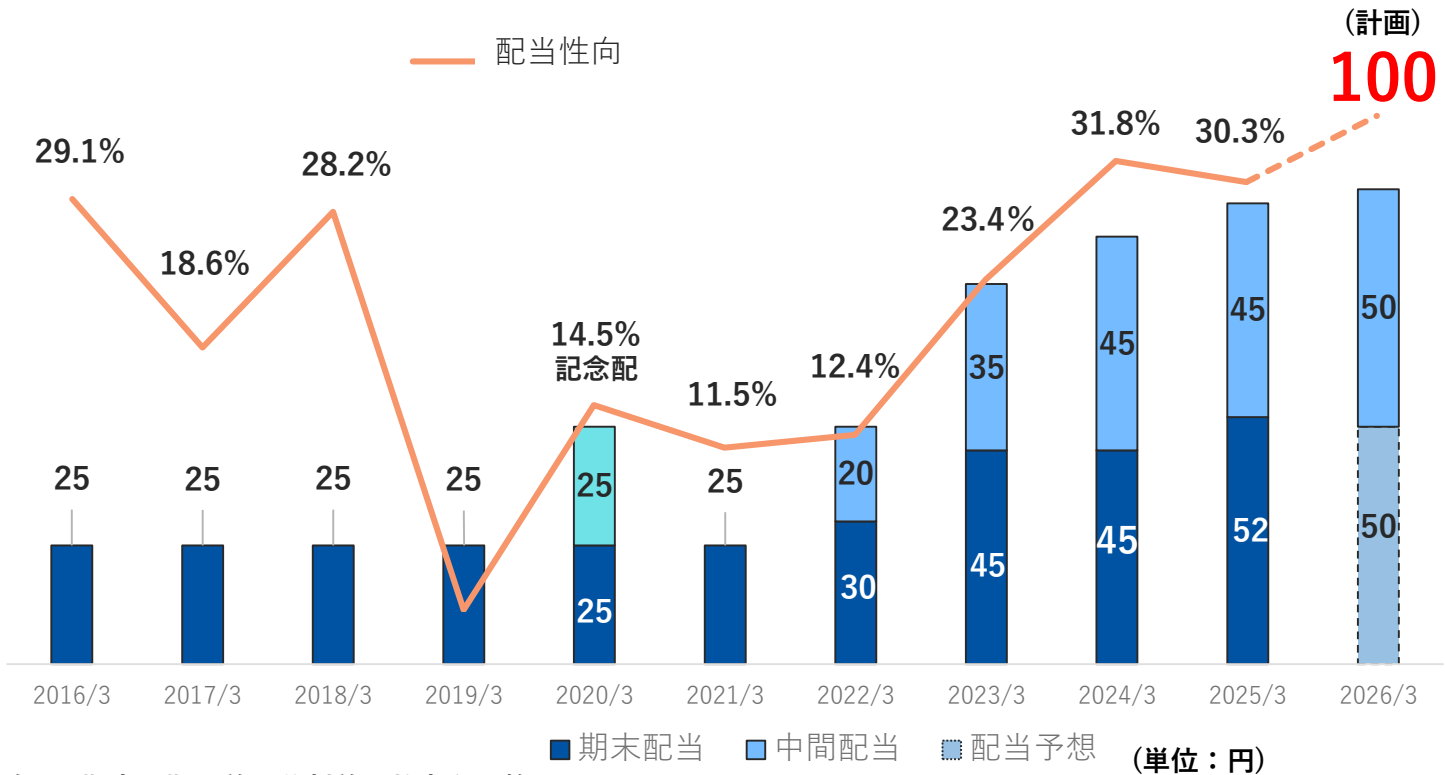
【CM放送情報】

- ・日本テレビ 2025 年 11 月～（毎週金曜日 10 時 55 分～）※関東ローカル放映予定
- ・BS 日テレ 2025 年 11 月～（毎週日曜日 24 時 25 分～、毎週月曜日 25 時 25 分～）放映予定

配当政策：2026年3月期中間配当は1株当たり50円で決定

2026年3月期年間配当は100円を予定（前期比+3円： 中間50円+ 期末50円）

- ・ 中期経営計画目標値： 最終年度2028年3月期「配当性向35%以上」、実質「累進配当政策」の継続
- ・ 中長期（～2035年3月期）では、「配当性向40%以上」「DOE(株主資本配当率)4.0%以上」を視野に



* 2017年3月期以前は併合前の数字を、2024年3月期中間期以前は分割前の数字を調整

2025年11月17日に「2026年3月期第2四半期決算説明会」を動画配信いたしますのでぜひご視聴ください。

https://www.nichimo.co.jp/ir/library/brief_note/

本資料に記載されております業績見通し等の将来に関する記載は、現時点において入手可能な情報に基づき作成したものであり、今後様々な要因によって異なる結果となる可能性があります。
また、本資料の著作権を含む一切の権利はニチモウ株式会社に帰属します。

IRに関するお問い合わせ

ニチモウ株式会社 総務部IR担当

E-mail：ir@nichimo.co.jp

TEL：03-3458-3020

2025年11月7日